議員（藪内 真由美）

4番、藪内 真由美でございます。

本日もよろしく、お願い致します。

令和7年6月定例会におきまして、次の1点について質問させていただきます。

一問一答方式でお願い致します。

合田邸の存続についてを中心に質問させていただきます。

合田邸については、私が議員になって初めての令和5年3月定例会の一般質問で取り上げさせていただきました。その際の答弁では、令和2年から令和3年にかけて検討会を開き、合田邸のスローガンや活用案を作成した。しかし、財政状況を鑑みて町指定文化財として保存するための計画を作って、まずは保全事業を行う。最終的な整備費用や費用対効果は現時点では分からないが、シビックプライドの醸成などの目に見えない効果がある。などの回答でした。あれから2年以上が経過しましたが、具体的な整備方針や効果などはいまだ示されず、その他にも多くの課題が、そのままの状態で山積しているように思います。むしろ、時間の経過とともに状況は悪化しているようにさえ思います。合田邸を町が最終的にどのようにしたいのか、未だに全く伝わってきません。そこで、改めて7点についてお伺いします。私が一般質問をしてから2年以上が経過していますが、現在の合田邸の改修状況についてお伺いします。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の現在の合田邸の改修状況についてのご質問に答弁をさせていただきます。

合田邸、つまり町指定有形文化財「旧合田家住宅（島屋）」については、経年劣化や自然災害等による損傷が見られることから保全工事が必要な状況となり、令和2年度から一般財源にて調査及び保全工事を行ってきました。令和5年度以降は、企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディング等により、個人・団体から頂いた寄附金を原資として積み立てた基金により、文化財的価値を維持するために必要となる緊急保全工事を実施しています。

令和5年度以降の緊急保全工事の内容は、シロアリや雨水による被害が見つかった「主屋」と「店棟」の崩壊を防ぐために行った支持材の付加や必要となる養生、「塀」の壁面の剥落を未然に防ぐための土壁部分の調査解体と防災シートによる養生、そして「離れ」の自然崩落を未然に防ぐための対応として、第1次から第3次にわたる調査解体を実施致しました。なお、これらの解体については後に復元する際に支障がないよう、その文化財的価値を保存するために行われる「解体修理」と呼ばれる手法に準じた調査及び解体であり、単なる除却や取壊しとは性質が異なるものです。

今年度の緊急保全工事につきましては、「離れ」の第4次調査として調査解体

時に判明した建築学・構造学等の学問上の観点による研究の成果等をまとめた報告書の刊行を進めているところです。また、公開活用時に支障があると考えられる「正門」の修繕も行う予定としております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

現在は、調査業務を行っているとの認識はしていますが、合田邸の保全事業はどのような計画に基づいて、あとどの位の期間と費用をかけて行うつもりなのか、お伺いします。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の保全事業の計画と期間及び費用についてのご質問に答弁をさせていただきます。

合田邸の緊急保全工事の内容や実施時期につきましては、過去の議会等でも答弁させていただきましたように令和4年12月に策定された「旧合田家住宅（島屋）緊急保全計画」に沿って実施してまいりました。ただし、先に答弁しましたとおり、緊急保全工事は個人・団体から頂いた寄附金を原資として積み立てた基金により実施しており、その枠内で対応することが求められているため、具体的な実施内容や時期を見直した単年度計画を別途作成し、当初の計画を前提としつつ、状況に応じた柔軟な対応を行いながら、事業を進めております。

なお、「離れ」については今年度の第4次調査をもって、ひとまずの区切りとなります。それ以外の今後の保全工事については未定ですが、町有施設であり町指定有形文化財である建造物・構造物の状況や基金の積み立て状況に応じて計画を適宜見直ししながら、必要となる緊急保全工事を実施することになります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

あとどの位の期間と費用をかけるのかと問うてはありますが、アバウトなご答弁有難うございます。予定がつかないと推測致します。

そこで、再質問です。今現在まで合田邸においくらかかかったのか、お示し願えますか、お伺いを致します。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の再質問に答弁をさせていただきます。

令和5年度と令和6年度合計で4,192万1,000円、この事業に使わせて頂きました。使わせて頂きましたお金につきましては、一般財源は使わず、基金とクラウドファンディングに基づいて使わせて頂いております。答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

再々質問させていただきます。合田邸の事業に関しては、企業版ふるさと納税を

財源として実施するとのことだったかと思います。また、企業に対して町長自らがトップセールスで寄附集めを行っているとのことでした。これまでトップセールスで集まった寄附金額とトップセールスの事務の流れについてお伺いします。

政策課長（吉田 拓也）

藪内議員の再質問に答弁をさせていただきます。

まず、これまで企業版ふるさと納税のトップセールスで集まった寄附金額については、令和4年から令和6年度までの3年間で合計6,130万円となっております。そのうち、合田邸の事業に対して寄附を頂いた金額と致しましては5,120万円となっております。

続いて、トップセールスの事業の事務の流れでございますけれども、まず年度当初に政策課において県内を中心に企業のリストアップを行いまして、各企業の決算期などの情報も確認した上でトップセールスを行う順番などの検討を行っております。

次に作成したリストを基に、まずは電話で企業に企業版ふるさと納税の概要であるとか趣旨の説明を行うとともに町長が訪問をする旨をお伝えし、了承頂いた企業に対して、町長とともに政策課、事業所管課の職員が訪問を行っております。企業への訪問時は、町長からご挨拶とトップセールスを行う事業の概要説明を行った上で、政策課から企業版ふるさと納税の制度の説明を行い、事業所管課から事業の詳細の説明を順次行うという流れで行っております。

そのような中の結果、ご寄附を頂けるようになった企業については、政策課の担当から必要な手続の案内を行うなど、ご寄附を頂く流れとなっております。なお、ご寄附を頂いた企業については、町長からの御礼状とともに受領書を送付させて頂いております。また、各企業の意向を確認した上で、受領式であるとか、町の広報、ホームページ、各種SNSでの寄附の情報の発信、掲載を順次行っております。以上となります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

事務方の職員の皆さん、有難うございます。ご足労がかかっているのが分かりました。

再々々質問を行います。その企業の選択とその寄附を受け取ることによって、その企業のメリットは何なのか。つまびらかに教え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

藪内議員の再質問に答弁をさせていただきます。

企業によるメリットと致しましては、町の事業に対する社会貢献、地域貢献がまず挙げられるかと思います。併せて企業で寄附をされた際には、その大部分が法人税等の控除を受けることが可能となっております。企業にも税法上のメ

リットがあるということでございます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

次にまいります。前回の答弁の際にも合田邸を含む本町筋界隈が重伝建に選定されるように努めるとのことでしたが、重伝建に関しての現在の進捗状況は、どのようになっているかお伺いします。前任者の渡邊議員と同じ質問で大変、恐縮なんですけど、よろしく願い致します。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の重伝建の現在の進捗状況についてのご質問に答弁をさせていただきます。

重伝建選定に向けた取組については、過去の議会等でも答弁させていただきましたように伝統的建造物群保存地区に想定される範囲に建造物や土地等を所有している方々に対し、個別訪問や資料送付等を通して「伝建制度」の詳細を説明し、制度導入に係る同意書の提出をお願いしているほか、概ね戦前に遡る家屋等の建築物や石造物、門、塀等の工作物、また、樹木等の環境物件を指す「特定物件」を所有する所有者の方々に対し、特定物件に関する同意書の提出をお願いしてきました。

令和6年度末における同意書の取得状況につきまして、もう一度ご報告させていただきます。伝建制度の導入に関する同意書につきましては108名中49名で約45%の同意を得ております。また、特定物件に関する同意書につきましては68名中29名で約42%の同意を得ております。

現在の伝建制度導入に関する同意率及び特定物件に関する同意率を考えると伝建制度全体に対する地区住民の同意や理解がまだ十分ではない状況であると考えております。伝建制度の意義や仕組みを丁寧に説明し、理解して頂きながら、伝建制度の導入に関する同意書の取得率を上げていくための取組を実施してまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

重伝建については、メリットばかりが伝えられているように感じております。

そこに住む町民の方や土地をお持ちの方にとって、本町筋が重伝建に選定された際に想定されるデメリットやリスクについて改めてお答え下さい。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の重伝建選定に係るデメリットについてのご質問に答弁をさせていただきます。

重伝建制度は文化財保護法に基づく制度であるため、国の文化財として保護の措置がとられ、規制の対象となることが重伝建制度におけるデメリットであるといえます。

保存地区として選定された地区内の全ての建物や土地について、外観の変更を伴う現状変更行為に対して一定の規制がかかります。一般的に現状変更行為とされるのは、建物の新築、増築、改築、移転又は除却、建物の修繕、模様替え又は色彩の変更等、宅地の造成等、竹木の伐採、土砂類の採取、水面の埋め立て等となります。なお、外観を変更しない内部のみの改装や非常災害時の応急処置、地下埋設物の設置、間伐枝打ち等の木竹の日常管理は現状変更行為には当たりません。

現状変更行為を行おうとする場合は、事前に自治体又は当該自治体の教育委員会に現状変更行為許可申請を行い、許可を受けなければ当該行為を行うことは出来ません。また、無許可で当該行為を行った場合、差し止めや自治体の条例等に基づく罰則を受けることがあります。また、当該行為の内容によってはその変更や中止を自治体から求められたり、不許可となったりすることもあります。特に除却については自治体や自治体が設けている審議会での厳しい対応が取られることもあり、特定物件として同意をした伝統的建造物については、原則として除却は出来ないことが多くなっております。

本町では地区住民への制度説明や同意書の取得に際しては、補助制度や税の優遇措置などのメリットだけでなく、規制の内容などのデメリットについても丁寧に説明をさせて頂いております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

再質問をお願いします。もし仮に選定された後は、孫、ひ孫の代も好きなように建て替えも出来ず、重伝建としての管理を行い、孫、ひ孫も修復にかかる一部を負担する。ということでしょうか。子々孫々、末代永遠にの認識でよいのでしょうか、お伺いします。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の再質問に答弁をさせていただきます。

重伝建地区の選定につきましては、歴史的な町並みを保護するために選定されたものでございますので、一度選定を受けますと、ずっと続いていくものという風に思っております。選定をやめるといったものは、なかなか想定はされておきませんので、難しいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

それであれば、町としては今後、何百年も町の負担が要る、支払わないといけないということになるんですね。分かりました。町の負担は毎年、今であれば物価高騰も入れますと2,000万近くかかるのではないのでしょうか。以前、お伺いした時には1,300万円以上ということ聞いております。それが、エンドレスという言葉でいいように聞き取りましたけども物価高騰で1,500万、2,000万近くなるのではないかと思います。毎年こういう金額が今後、何十

年、何百年と発生するののかと思うと私は不安に思っております。

次にまいります。この2年間で合田邸を目的とした観光客や来場者は、実際にどの位増えたのでしょうか。また、今後の一般の見学者に関する予定や計画などはあるのかお伺いします。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員のこの2年間における合田邸を目的とした観光客や来場者の増加や今後の一般見学の予定についてのご質問に答弁をさせていただきます。

令和5年度から令和6年度までの緊急保全工事の期間中につきましては一般公開出来ませんでした。今年度からは工事が完了し、一般公開が可能となりました。

合田邸の訪問人数でございますが、令和6年度は緊急保全工事の状況を限定的に公開し、約30名の見学者がありました。今年度は4月のさくらまつりの関連行事としての一般公開が約100名、5月の本町デーにおける一般公開が約140名でございました。

また、今年度の予定としては、瀬戸内国際芸術祭の開催年であることから、瀬戸内国際芸術祭の開催期間中の一般公開等を検討していきたいと考えております。

引き続き、公開活用を業務委託しております一般社団法人合田邸ファンクラブと連携しながら公開を含めて活用方法を検討し、多くの方に訪問して頂けるよう努めていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

2年が経過しましたが、依然として改修や調査中で合田邸を目的とした来場者は実質的にいないのが現状だと思います。本来であれば、合田邸への寄附を頂く以前に、その整備方針などのビジョンが定まっていけないと思いますが、町として合田邸を最終的にどのようにしたいのか。そのためにいつまでかかり、いくら予算が必要になるのか、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

藪内議員の合田邸の整備方針及び予算についてのご質問に答弁をさせていただきます。

合田邸は近世から近代にかけて豊富な財力を築き、順次、建築整備を進めてきた邸宅です。明治中期から昭和初期にかけての多様な構造形式や細部様式を有する建築物群が残されていること、また、周囲に残る伝統的町並みとともに本町が近世から近代にかけて発展した歴史を現代に伝えるものとして、極めて重要な町指定有形文化財であるとともに日本遺産「北前船寄港地・船主集落」の構成文化財です。

本町と致しましては、合田邸を文化財として保存するとともに地域の活性化や

住民の交流の場としても活用し、本町の歴史や文化を知っていただく機会の創出を目指していきたいと考えております。

予算につきましては、先ほど答弁しましたとおり、企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディング等により個人・団体から頂いた寄附金を原資として積み立てた基金の範囲で事業を実施していきたいと考えています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

町長、ご丁寧な答弁有難うございます。今後、仮に多額の費用をかけて合田邸が復活したとしても、それを継続して維持していくのに莫大な予算を要し続けると思います。

昨年、福井県敦賀へ視察に行かせて頂いた際に歴史的な建築物を原状復旧するのではなく、跡地としてジオラマ館などとして生まれ変わらせ、地元の方々や県内の小・中学生の校外学習の場として有効的に使われていました。デジタル技術の活用も考えられるでしょう。合田邸もそのような資料館等へ生まれ変わらせる予定はございますか。

生涯学習課長（福田 純）

藪内議員の合田邸を資料館等にするのはどうかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員ご提案の合田邸を資料館等にすることは地域の文化や歴史を保存し、次世代に伝える方法として活用の選択肢の一つと考えられます。合田邸は歴史的な建築様式や生活様式を反映しており、これを資料館等として整備することで住民や訪問者に対して、歴史や文化の学びの場として提供することが出来ると考えられます。現在、学校と連携し、小学校の校外学習を通し、合田邸の見学を行い、地域の歴史を知ってもらう機会を創出しております。

今後も多くの方に足を運んで頂けるよう、一般社団法人合田邸ファンクラブをはじめとする関係団体等と連携し、町民の皆様からのご意見も伺いながら、活用の取組を推進していきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪内 真由美）

多数の質問にお答え頂き、有難うございました。

現在、皆様もご存じのとおり、日常生活において必要なものの物価が高騰しております。毎日を生きるのが精一杯の方もいると思います。私たちは、町民の気持ちを第一に考える理解者でなければならないと思います。町で使われる財源が本当に町民に必要なのか、優先するべきところがほかにあるのではないのか、今一度考え直す必要があるのではないかと思います。私の周りの町民は皆んな、旧合田邸への町の支援に難色を示しております。先ほどの渡邊議員の意

気込みとは反対で申し訳ありませんが、本町筋界限への支援援助もいかなものかと聞いております。一部の熱列なファンがいるのは承知しておりますが、もっと広く大勢の町民の意見を聞き、時代に遅れることなく、待ったなしの人口減少、子育て支援に取り組んで頂きたいものです。

2年前までは、私も合田邸ファンの1人でした。観光客を呼び込もうとしている活性化なのか地域住民サービスを優先するのか、今一度検討するべきではないのでしょうか。合田邸は町が誇るべき建物だということは、重々承知の上です。古きよきものを完全に忘れ去るということではなく、現代の町民に沿うやり方を一緒に考えてまいればと思います。

以上で、私の一般質問を終了させていただきます。有難うございました。